

報告

松野クララ記念歴史に学ぶ会

第一回講演会報告

宮里 曉美

(お茶の水女子大学附属幼稚園)

顕彰碑建設を記念して、歴史に学び、今そして明日を創り出す会をつくっていかうという声が集まり、松野クララ記念歴史に学ぶ会が発足し、平成二十四年十一月三日、顕彰碑をお参りした後に、第一回目の講演会を実施しました。

◇顕彰碑に花をささげ、語り合いが始まる

青山霊園外人墓地内にある松野家の墓は、大きな松の木が目印です。顕彰碑にはきれいな花が飾られました。



青空が広がったさわやかな秋の日、顕彰碑の周りでは、一年ぶりの再会を喜ぶ声や、顕彰碑を眺めながら懐かしく語り合う人々の姿が見られました。

◇歴史をたどる講演会

演題 「木戸孝允の人柄とその先見性と情緒、

木戸侯爵家について」

講師 和田昭允氏 (東京大学名誉教授、

お茶の水女子大学元理事、名誉学友)

会場 青山フロラシオン 松の間

日本の林業教育の先駆者であった松野^{ほま}碯はドイツ留学中にクララと知り合い、互いに愛を誓い合いま

した。二人の結婚は、松野が帰国した後に日本で実現するわけですが、結婚を支え実現へと導いた恩人ともいえるべき人が木戸孝允であり、和田先生は、その曾孫にあたられます。



▲和田昭允氏

講演会では、詳細な資料や写真などをもとに、木戸孝允の人柄や先見性についての話をお聞きし、明治という時代に思いをはせる時間となりました。

その後、参加者からの質疑応答の時間となり、歴史についての熱い語り合いが続きました。参加者の声を幾つか紹介します。

○松野クララを語る上では欠くことのできない話をお聞きできた。「木戸孝允日記」の中に、クララのお話が詳細に書いてある。「クララは、はるばる海を越えてやってきた、まことにけなげである」と書いている。木戸は直接に関係のない人のことをよく面倒を見ている。クララに同情し助けている木戸は、情の人、情緒の人だと思う。

○一年前に顕彰碑の除幕式に出させていただき、その後の茶話会で和田先生が木戸の子孫であるご知り、ゆつくり話を伺いたいと思っていた。松野クララが日本で最初の幼稚園の主任保母となった顛末を「幸運なことには」と書かれていることがあるけれど、そうだろうか。ある程度予定されていたのじゃないかという考えも浮かんでくる。

○松野圃の帰国後、クララが一年ドイツに残ったのは、幼稚園教師の免許を取るために必要な時間だったのではないか。日本に来て、クララは豊田英雄や近藤濱にきちつと幼児教育を教えている。これは急に頼まれてできることではないと思う。

次々に語られる意見は興味深く、さらに考えていきたい内容ばかりでした。歴史の面白さ、奥深さに触れた一日でした。

